

## 暮らし向きは2年連続で改善 先行きは悪化見通し

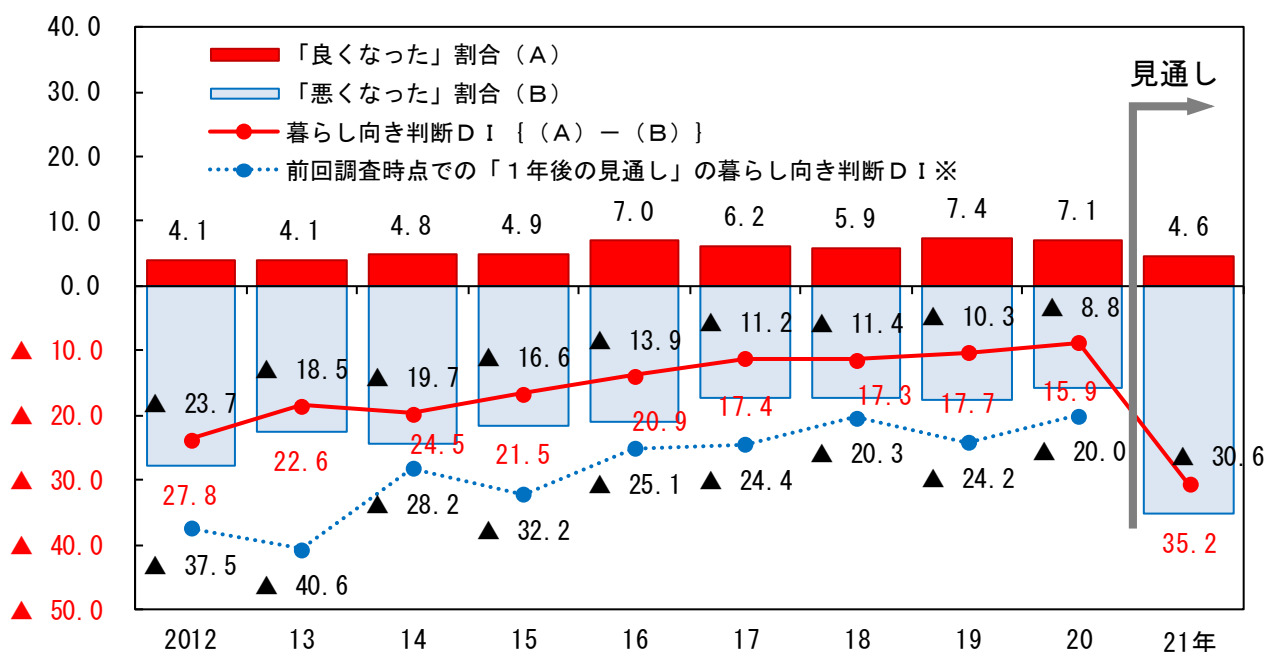
～コロナ禍により収入・支出ともに減少したものの暮らし向きはわずかに改善～

当行では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2020年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が7.1%、「悪くなった」が15.9%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査比1.5ポイント増の▲8.8と2年連続で上昇した。

一方、先行き（2021年）の「暮らし向き判断DI」は、21.8ポイント減の▲30.6と2009年（▲38.6）以来の低い水準となった。

図表1. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



※例：2020年の▲20.0は、2019年11月時点での「1年後（2020年）の暮らし向き判断DI」を示す。

### 【調査要領】

1. 期 間 2020年11月2日～11月20日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行の山陰両県内本支店の店頭にてアンケート用紙を配布し郵送で回収（またはWebで回答）
4. 回 答 数 配布数2,480枚、有効回答数579（回収率23.3%）
5. 回答者構成比 10・20代7.6%、30代16.1%、40代32.8%、50代以上43.5%

## 〔調査結果の概要〕

### 1. 暮らし向き

○足元（2020年11月）の「暮らし向き判断D I」は前回調査比1.5ポイント増の▲8.8と2年連続で上昇した。先行き（2021年）は▲30.6と2009年（▲38.6）以来の低い水準となった。

### 2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比21.3ポイント減の▲8.6となり、7年ぶりにマイナス圏まで低下した。

### 3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は前回調査比11.7ポイント減の22.3と、3年ぶりに前回調査を下回った。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて上昇した。

### 4. 今後の家計の重点

○堅実姿勢が続くなかで「貯蓄の充実」や「健康増進」などが上位となった。

○若い世代を中心に「レジャー・娯楽」が上位にあり、コロナ禍による自粛ムードが続くなかでも、潜在的に余暇活動への興味・関心が強い様子がうかがえた。

### 5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目のうち、最も回答割合が多かったのは「食料・外食費」だった。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後1年間で特に支出を増やしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「通信費」だった。

### 6. 貯蓄動向

○全体では「増加した」が「減少した」を上回った。

○貯蓄残高は『300万円未満』が4割強を占めた。

### 7. 雇用に対する不安

○30代や40代で『不安がある』が上昇した。

### 8. 新型コロナウイルス禍における支出行動について

○緊急経済対策の一環として給付された特別定額給付金の使い道として、半数近くが「生活費（食費や家賃、光熱費など）」を挙げるなど、一定の政策効果がうかがわれる結果となった。

○ウィズコロナ時代に向けた新生活様式が推奨されるなかで、実践している（実践したいと考えている）消費生活姿勢として最も多かったのは「外出や旅行を控えて自宅で余暇を過ごす」だった。